

1 水準測量による地盤沈下調査結果の概要

本県では、地盤沈下の状況を把握するため、県内を4地域に区分し、国土交通省、名古屋市及び名古屋港管理組合と連携し、1級水準測量を実施している。その内、2024年に愛知県は353kmの測量を実施した。（表1－1、資料－1）

表1－1 各地域の水準点数及び測量延長

区分	測量基準日	測量水準点数	測量延長(km)	
			愛知県	名古屋市
尾張・名古屋市地域	11月1日	589	288	167
知多地域	11月1日	62	65	－
合計	－	651	353	167

注）測量水準点数には国土交通省始め各機関の観測数も含める。

なお、2024年に観測していない地域の直近の測量年次は、西三河地域が2023年、東三河地域が2022年であり、それらの調査結果を資料－7に示す。

（1）地盤沈下調査結果の概要

2024年に実施した水準測量の結果は表1－2に示すとおりで、有効水準点数593点の内、前回から沈下した水準点数は332点であった。沈下点数の割合は、有効水準点数の約56%となり、2023年（約84%）と比べ、減少している。

なお、地盤沈下の目安としている1年間又は1年当たりで1cm以上沈下した水準点は観測されなかった。

表1－2 水準測量結果（2024年）

単位：点

地域	水準点数	測量 水準点数	有効 水準点数 (A)	沈下点数					割合 (B/A)
				計(B)	0.5cm未満	0.5cm以上 1cm未満	1cm以上2cm 未満	2cm以上	
尾張・名古屋市地域		589	557	327	301	26	0	0	59%
知多地域		62	36	5	5	0	0	0	14%
計		651	593	332	306	26	0	0	56%

注）知多地域の変動量は、前回の観測が2020年のため、4年間の変動量を1年間に換算している。

（２）地域別の地盤沈下調査結果の状況

ア 尾張・名古屋市地域

尾張・名古屋市地域の観測結果（2023 年 11 月～2024 年 11 月）によると、有効水準点数 557 点の内、沈下点数は 327 点であった。有効水準点全体に占める割合は約 59% であり、2023 年（約 83%）と比べ減少した。また、1 cm 以上の沈下点は観測されなかった。

なお、過去 10 年間の沈下点数の推移は、表 1－3 及び図 1－1 に示すとおりである。

次に、年間地盤沈下域の面積と年間最大沈下量の推移を表 1－4、主要な水準点の累積変動状況を図 1－3 に示す。尾張・名古屋市地域における地盤沈下は、1960 年代において著しかったが、1970 年代は沈下速度が鈍化し、1985 年以降は概ね沈静化の傾向を示している。

表 1－3 沈下を示した水準点数の推移（尾張・名古屋市地域）

単位：点

水準点数		観測年	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
有効水準点数			556	562	559	560	560	556	558	561	560	557
沈下点数	0.5cm未満		242	120	450	254	342	328	145	118	412	301
	0.5cm以上1cm未満		305	2	59	11	133	164	10	2	50	26
	1cm以上2cm未満		3	0	2	0	7	1	1	0	0	0
	2cm以上		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計		550	122	511	265	482	493	156	120	462	327

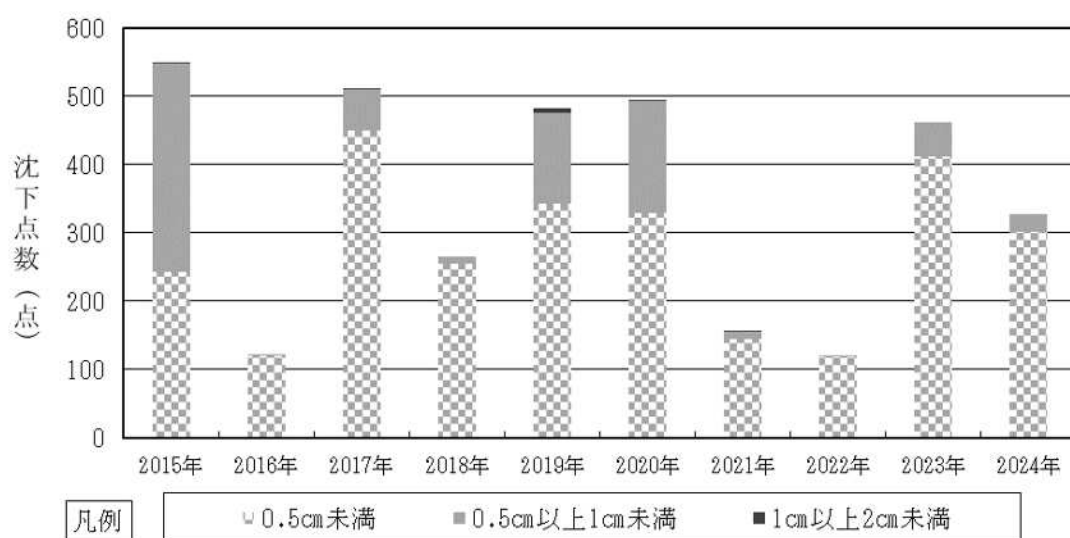


図 1－1 沈下を示した水準点数の推移（尾張・名古屋市地域）

表 1－4 年間地盤沈下域の面積と年間最大沈下量の推移
(1972 年～2024 年：尾張・名古屋市地域)

単位：km²

観測年 最大沈下量	1972 年	1973 年	1974 年	1975 年	1976 年	1977 年	1978 年	1979 年	1980 年	1981 年	1982 年	1983 年	1984 年	1985 年	1986 年	1987 年	1988 年
1 cm 以上	※	※	※	※	※	※	※	約 118	約 60	約 61	約 63	約 143	約 98	約 0	約 0	約 48	約 0
2 cm 以上	約 500	約 454	約 426	約 176	約 111	約 100	約 96	約 63	約 0	約 0	約 0	約 5	約 0			約 0	
4 cm 以上	約 330	約 310	約 280	約 107	約 51	約 38	約 0	約 0				約 0					
6 cm 以上	約 251	約 223	約 145	約 59	約 4	約 0											
8 cm 以上	約 157	約 164	約 90	約 15	約 0												
10cm 以上	約 83	約 103	約 45	約 0													
12cm 以上	約 34	約 59	約 19														
14cm 以上	約 0	約 29	約 6														
16cm 以上		約 15	約 1														
18cm 以上		約 5	約 0														
最大 cm	13.9	20.6	17.3	9.90	8.40	7.30	4.60	3.50	2.20	3.20	2.40	2.60	2.30	1.50	0.95	1.83	0.61

観測年 最大沈下量	1989 年	1990 年	1991 年	1992 年	1993 年	1994 年	1995 年	1996 年	1997 年	1998 年	1999 年	2000 年	2001 年	2002 年	2003 年	2004 年	2005 年
1 cm 以上	約 25	約 0	約 0	約 32	約 0	約 351	約 3	約 0	約 0	約 4	約 0	約 0	約 3	約 0	約 0	約 6	約 41
2 cm 以上	約 0			約 0		約 49	約 0			約 0			約 0			約 0	約 0
4 cm 以上						約 0											
最大 cm	2.23	1.98	1.41	1.58	0.98	2.84	1.31	1.31	1.31	1.66	1.73	0.80	1.64	1.50	1.20	2.06	2.08

観測年 最大沈下量	2006 年	2007 年	2008 年	2009 年	2010 年	2011 年	2012 年	2013 年	2014 年	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年
1 cm 以上	約 0	約 0	約 0	約 0	約 0	約 0	約 0	約 0	約 0	約 0	約 0	約 0	約 0	約 3	約 0	約 0	約 0
2 cm 以上														約 0			
最大 cm	1.27	0.77	0.89	0.94	0.70	0.90	0.99	0.91	1.00	1.36	0.69	1.05	0.94	1.25	1.11	1.06	0.71

観測年 最大沈下量	2023 年	2024 年															
1 cm 以上	約 0	約 0															
2 cm 以上																	
最大 cm	0.83	0.76															

注 1) ※は「1 cm以上」の区分がなかったことを示している。

注 2) 沈下域の面積で「約0」とは、沈下した水準点は存在するものの、沈下域の形成には至らなかったことを示している。また、「0」とは、沈下した水準点も存在しないことを示している。

注 3) 「沈下域」とは、隣接する 3 点以上の水準点の年間沈下量が 1 cm 以上である地域である。

次に、年間沈下量の大きい水準点を表 1－5 に示す。最大沈下点は、名古屋市港区昭和町地内に設置している水準点「K7-1」で、0.76cm を観測した。なお、水準点「K7-1」については、観測当初（1962 年）からおおむね 1cm 未満の沈降・隆起を繰り返しており、累積変動量は 3.43cm の隆起となっている。

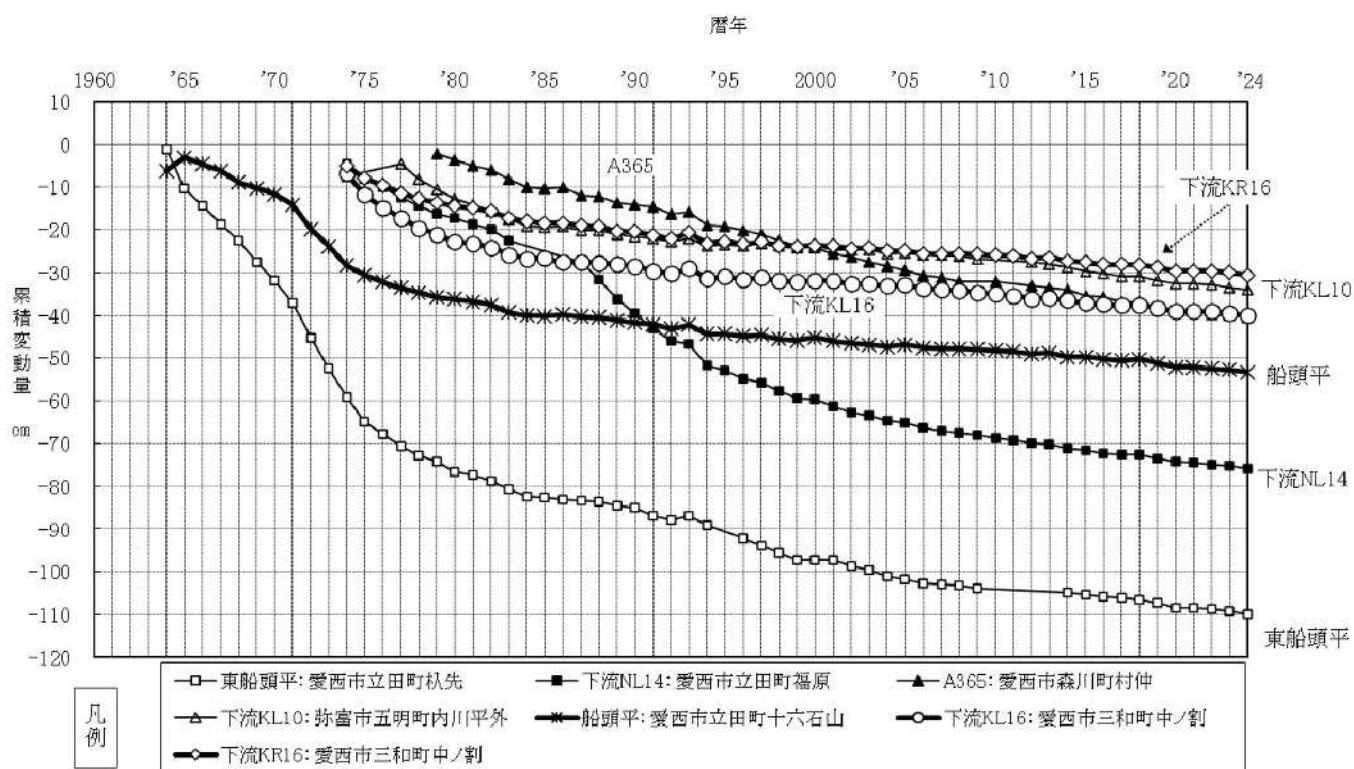
表 1－5 年間沈下量の大きい水準点（尾張・名古屋市地域）

水準点番号	所在地	沈下量(cm)
K7-1	名古屋市港区昭和町地内	0.76
A121	愛西市江西町川原11	0.63
下流NL-14	愛西市立田町福原	0.62
下流KL-16	愛西市三和町中ノ割	0.61
A345	愛西市森川町村仲86	0.61

また、最近 5 年間に於ける累積沈下量の大きい水準点を表 1－6、その変動状況を図 1－2 に示す。最大沈下点は、愛西市立田町杵先に設置している水準点「東船頭平」で、最近 5 年間の累積沈下量は 2.54cm である。

表 1－6 最近 5 年間の累積沈下量の大きい水準点
(2019 年 11 月～2024 年 11 月：尾張・名古屋市地域)

水準点番号	所在地	沈下量(cm)
東船頭平	愛西市立田町杵先184-24	2.54
下流NL-14	愛西市立田町福原	2.37
A365	愛西市森川町村仲	2.35
下流KL-10	弥富市五明	2.15
船頭平	弥富市立田町十六石山1274-11番地	2.08
下流KL-16	愛西市三和町中ノ割	1.76
下流KR-16	愛西市三和町中ノ割	1.71



注) 下流NL14 は 1984 年、東船頭平は 2011 年に移設。(移設後 3 年間はデータに含めない)

図 1－2 最近 5 年間に於ける累積沈下量の大きい水準点の変動状況
(尾張・名古屋市地域)

次に、調査開始から 2024 年までの累積沈下量が 1 m を超える水準点を表 1－7 に示す。最大累積沈下点は、弥富市神戸七丁目に設置している水準点「A3-4」で、累積沈下量は約 150cm であるが、主要な水準点の累積変動状況（図 1－3）を見ると、1990 年頃からは概ね沈静化の傾向を示している。

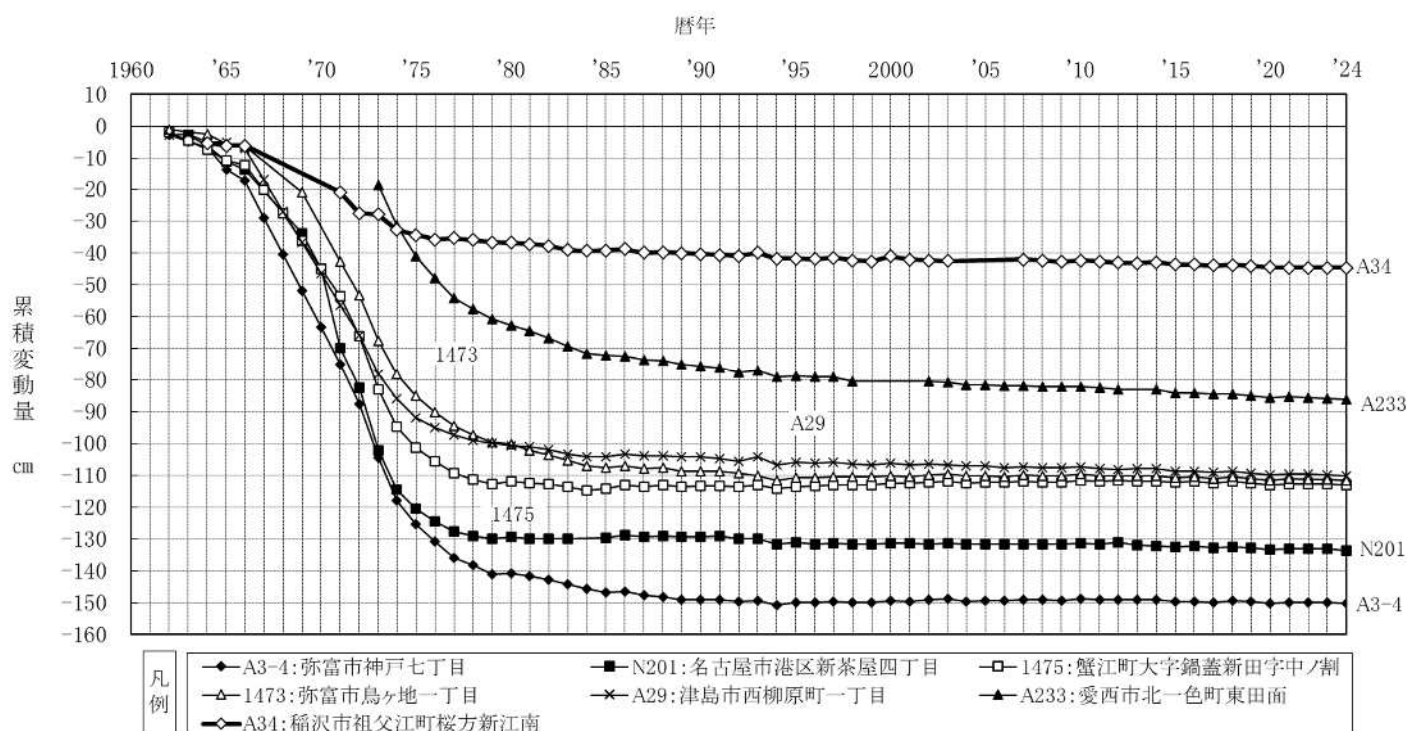
なお、尾張・名古屋市地域における累積沈下量のコンター図を図 1－4 に示す。

表 1－7 累積沈下量が 1 m を超える水準点
(調査開始～2024 年 11 月：尾張・名古屋市地域)

水準点番号	所在地	沈下量(cm)	標高T.P.(m)	調査開始年
A3-4	弥富市神戸七丁目	150	-1.3150	1963年
N201	名古屋市港区新茶屋四丁目909番地先	133	+0.4007	1962年
1475	蟹江町大字鍋蓋新田字中ノ割	113	-1.4638	1961年
1473	弥富市鳥ヶ地一丁目	112	-1.7579	1961年
A29	津島市西柳原町一丁目	110	-0.3630	1961年
東船頭平	愛西市立田町杵先	110	+1.9710	1961年
A25-1	あま市七宝町遠島大切戸	109	+0.1682	1963年
A3-5	弥富市四郎兵衛三丁目	108	+1.4156	1961年

注 1) A3-4 は、1993 年までは旧水準点で、1994 年以降は新水準点で測った結果を累計している。

注 2) T.P. は、東京湾平均海面 (Tokyo Peil) の略。



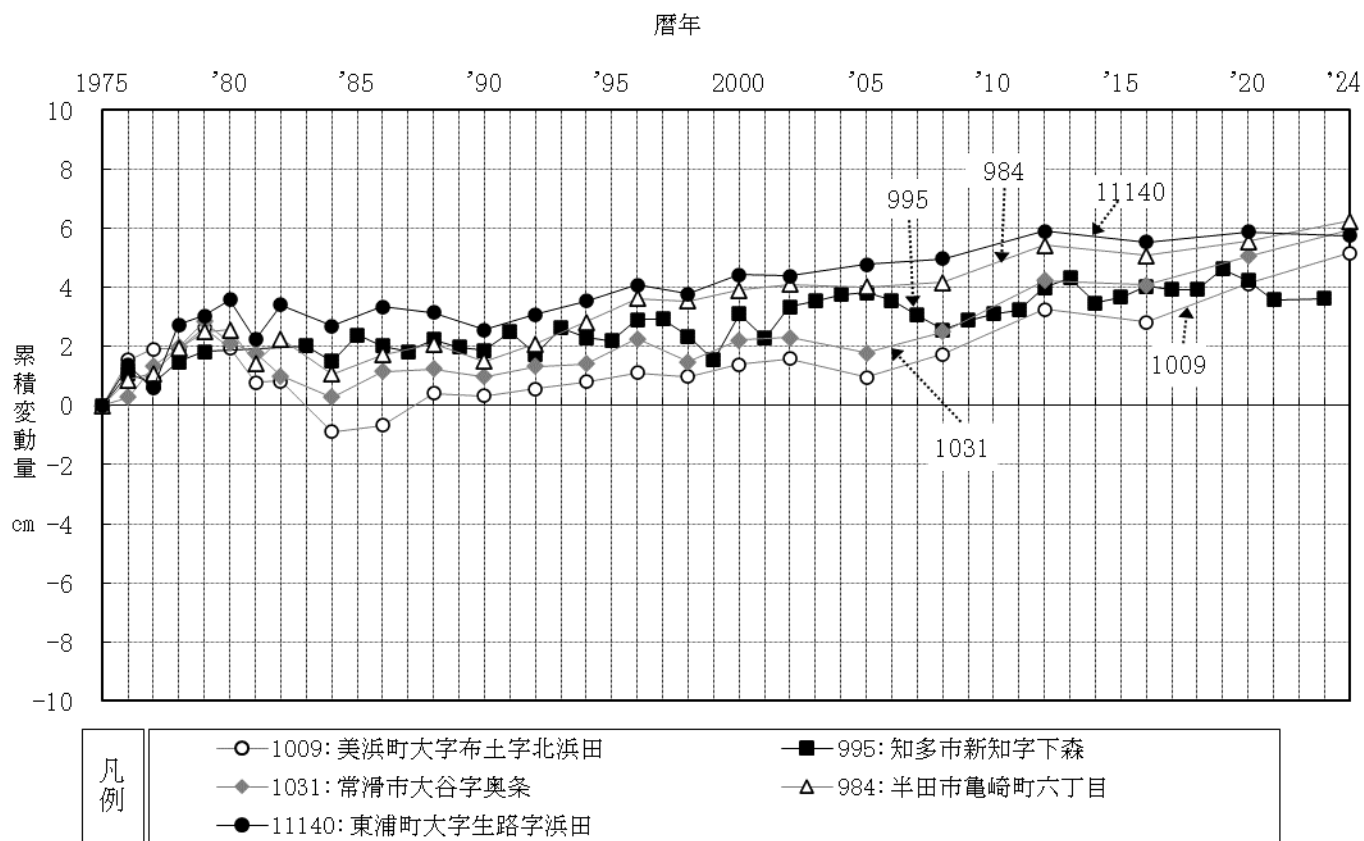
注 1) A233 は 1999 年、A34 は 2004 年に移設（移設後 3 年間はデータに含めない）。

注 2) グラフ記載の地点は、累積沈下量が 1 m を超える水準点上位 5 点及びその他 2 地点である。

図 1－3 主要な水準点の累積変動状況（尾張・名古屋市地域）

イ 知多地域

知多地域の観測は、2008 年以降、4 年に 1 度の測量のため、4 年間（2020 年 11 月～2024 年 11 月）の変動状況である。主要な水準点の累積変動状況は図 1－5 のとおりである。1 年当たり 1 cm 以上沈下した水準点はなく、調査開始以来、地盤沈下の傾向は見られない。



注) 水準点 995 は国土地理院が毎年測量を実施。また、1980 年移設（移設後 3 年間はデータに含めない）。

図 1－5 主要な水準点の累積変動状況（知多地域）